

## 納めることは治めること

村山市立葉山中学校3年 佐藤 恭佳

「あー、税金税金！水を流すってことはお金が流れてるってことなんだからな。」

これは私が小学生の頃、学校で水が出しっぱなしになっていたときに担任の先生から言われた言葉です。当時の私は、学校のお金は村山市の税金が使われていることは知っていたけれど、税金に関して、詳しいことは何も知りませんでした。

「税金なんて、大人が納めているもの。学校で使われているくらいでしょ。私達には関係のないこと。」

そう思っていました。

あれから3年がたち、私は今中学3年生になりました。今では税金のありがたみをひしひしと感じています。

私のはじめて税金が大きな役目を果たしていると感じたのは、兄が高校に入学するときでした。私は、教科書は税金によって無償で給付されることを小学校の先生から聞いていたので、高校では自分で教科書を買わなければならないというところに驚きました。そして、何よりも驚いたのがその教科書の値段でした。その値段が当時のわたしにとって、とても衝撃的だったのを今でも覚えています。自分が使っている教科書を全額負担している税金のありがたみを知る事ができました。

そしてその一年後、私が中学校に入学するときにも税金のありがたみを知ることになりました。それは村山市で行っている、入学応援金です。中学校に入学する村山市の生徒全員に一人あたり五万円の入学応援金が支給されました。私が今着ている制服はそのときに頂いた応援金で買ったものです。

今の日本の税金は、教育はもちろん、医療費の負担や子育て支援、介護費、公共施設の運営など、様々な形で私達に還元してくれています。もし、今の日本に税金がなかったら。お金がなくて学校に通えない子どもが出てくるかもしれないし、病院に通えず、病気が悪化して亡くなってしまう人がいるかもしれません。そうならないために形を変えて、税金が活用されていることが分かりました。

そして、国民から集めた大切なお金だからこそ、大切に使うてはいけません。七月に行われた参議院議員選挙では、各候補者、政党は公約を掲げました。よく考えてみると、それらの公約の多くは財源なくして実現しません。私たちの生活に直結する税を考えることは、政治に興味を持つことにつながると感じました。

税金は人々の暮らしをより豊かにし、居心地の良い国にするために使われています。政治を行う上で重要になる税金の使い方。しかし、私達が納めなければ、こんな議論になることはありません。私たちは選挙を通して、政治に参画しますが、実は納税こそが政治に関わる第一歩なのかもしれません。税金を納めること、それはすなわち国を治めることに繋がっていると思います。